

# リボン計画実績報告 (おおた地域共生ボランティアセンター)

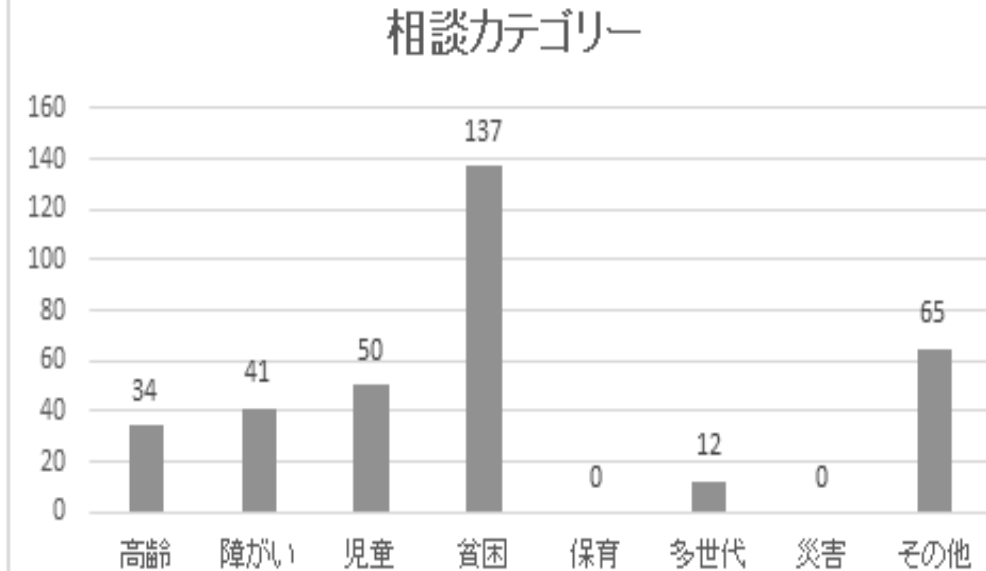
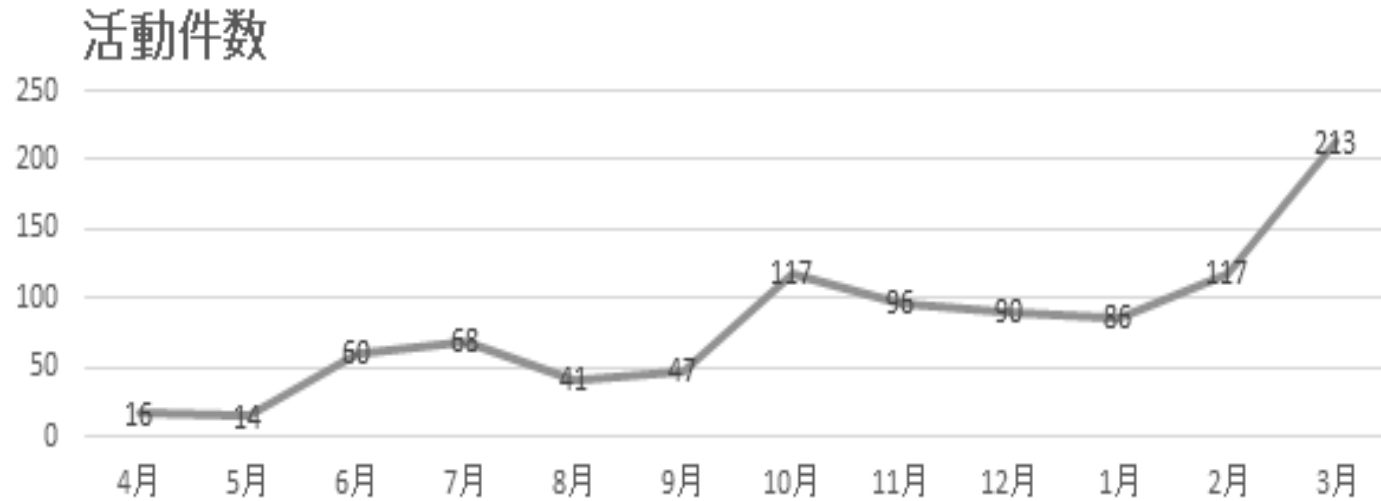
- (1) 地域福祉コーディネーター体制強化
- (2) 子どもの居場所づくり事業
- (3) 地域の支えあいのサポート活動
- (4) 様々な地域貢献のカタチの提案
- (5) 災害ボランティアセンターの強化
- (6) 地域の支えあいのプラットフォーム

# (1) 地域福祉コーディネーターの 体制強化

# ■ 地域からの相談の受け止め

- ▶ 地域からの個別の相談に応じ、適切な資源や専門機関につなげるとともに、地域の方と共に、その解決につなげる活動を行いました。

## 【個別相談対応】



⇒コロナ禍の影響あり、個別の相談、特に生活困窮の相談が増えてきています。

# 地域福祉コーディネーターの変遷と統合へ

## 大田区

「地域ささえあい強化推進員」配置(平成30年度)

- 4人(嶺町・田園調布・糀谷・大森東の地域包括)
- ◆ フレイル予防の地域づくりの展開のために設置

令和元年度

- 2か所増設(蒲田西・矢口の地域包括)
- 6人
- ◆ 地域福祉計画策定で支え合い地域づくり全世代型

令和2年度

- 2か所増設(大森・馬込の地域包括)
- 8人
- ◆ 地域共生社会づくりに向け強化し、エリア拡大

## 社会福祉協議会

「地域福祉コーディネーター」設置(平成30年度)

- 4人(大森・調布・蒲田・糀谷羽田の基本圏域)
- ◆ 世代・分野問わない支援体制構築のために設置

令和元年度(地域共生ボランティアセンター設置)

- 地域共生担当係長設置
- ◆ 強化のため組織改正・リボン計画で区計画との連動

令和2年度

- 地域福祉コーディネーター増員
- 5人
- ◆ 「地域ささえあい強化推進員」と連携して活動

令和3年度から(13名で、さらなる強化)

- 大田区版地域共生社会実現のため両者を統合することでさらなる強化を図る
- 大田社協に拠点を置き(人員を社協に配置し)集約し、チーム体制で活動する

# 令和3年度の体制

## 現在

大田区⇒池上長寿園/響会/白陽会へ委託



■どんな人？  
主に高齢者の介護予防や生活の支援に関わる地域での取り組みを増やしていく人

■配置場所：  
区内地域包括支援センター8か所  
(大森・馬込・嶺町・田園調布・蒲田西・矢口・糎谷・大森東)

■配置人数：  
8名

おおた社協が配置



■どんな人？  
分野・世代問わず、地域からの個別の相談に応じ、適切な資源や専門機関につなげるとともに、解決につながる地域での取り組みを増やしていく人

■配置場所：  
社会福祉協議会

■配置人数：  
5名

## 令和3年度

**配置場所、名称及び役割を統合します！**

■名称：地域福祉コーディネーター

■どんな人？

- ①どこに聞けば良いかわからない困りごとの相談にのります！
- ②地域の皆さんのやってみたいを応援します！
- ③皆さんと一緒に、住んでよしの街づくりをお手伝いします！

■配置場所：社会福祉協議会

■配置人数：13人



地域ささえあい強化推進員

地域福祉コーディネーター

# ■ 本体制による効果

- ①両者の動きは非常に共通している部分が多く、役割を統一することで、より動きが活性化する。
- ②区内に点在していた人を、1か所に集めることで、チーム力を生かした動きにしていく。
- ③勤務場所が一か所になることで、常時相談、協力  
できる体制となります。

## (2)子ども居場所づくり事業



## ■ 実施の背景

- ▶ 不登校・引きこもりは、年々増加し、小学生の不登校出現率は10年前と比べて2倍以上になっていて、区内では、特に小学校低学年の不登校児の居場所がないのが現状。



# ■子どもの居場所づくり事業(地域協働事業)

家庭や学校以外で、多様な体験を得る子どもたちの居場所を地域の団体の皆さんと協働で実施。

## 学習×食事×体験 『子どもの居場所づくり』事業



### ①『わくわくホーム』事業

実施期間 長期休暇(春・夏・冬休み)

目的 保護者の一時的な休息の確保と、様々な経験を通して子どもの前向きに挑戦する力を養います。



### ②『のびのび』事業

実施期間 平日

目的 不登校の長期化を防ぎ、通学できなくても学習と多様な経験の機会を提供します。

例 『のびのび』での1日の過ごし方  
【毎月第4金曜日開催】



『わくわくホーム』  
『のびのび』では送迎があります



①勉強したいものを持ってきて自分のペースで勉強しよう。スタッフがサポートします。



②お家でもつくれる簡単な料理をみんなで作って見よう!作るものはお楽しみ♪

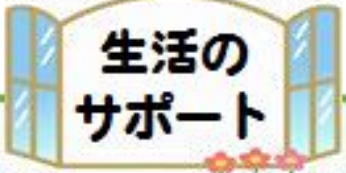


③カードゲームやボードゲームでリラックス♪自由に過ごそう、イベントも開催予定!

## **(3)地域の支えあいのサポート活動**

# ■ 絆サポーターが行う様々なサポート

## 『絆サポート』

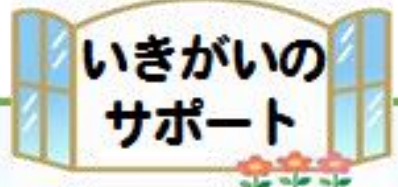


- ・日常生活の支援
- ・継続的な支援
- ・家事支援
- ・自立支援
- ・30分以上



1回 30分 500円

## 『助っ人サービス』



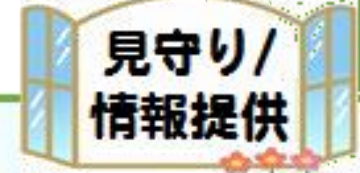
NEW

- ・ちょっとした（単発・短時間）困りごとの支援
- ・家事に限定しない、枠になまらない支援。
- ・30分以内



1回 30分以内 200円

## 『ほほえみ訪問等』



- ・月1、2回程度の訪問、お話し相手
- ・ご近所さんの変わった所の情報提供



## 多様な絆サポーター





# ■ シニア男性の地域の活躍の場を広げる取組み 「助っ人」 サービス

- ▶ 退職後も、まだまだ地域の力となるシニアの男性が数多くいらっしゃいます。おおた社協は、その力を生かせる場として、ちょっとした困りごとを助ける『助っ人サービス』に取り組んでいます。
- ▶ 今年度実績 30件 実働男性サポーター 10名

## 本活動で大活躍! 頼れる『助っ人』さんをご紹介します



活動の多くは力仕事を中心になります。「助っ人」サポーターの多くは男性で、皆さんいきいきと活躍しています。

高い所から  
荷物をおろして  
ほしい

掛け時計の  
電池を交換して  
ほしい

季節家電の  
出し入れ

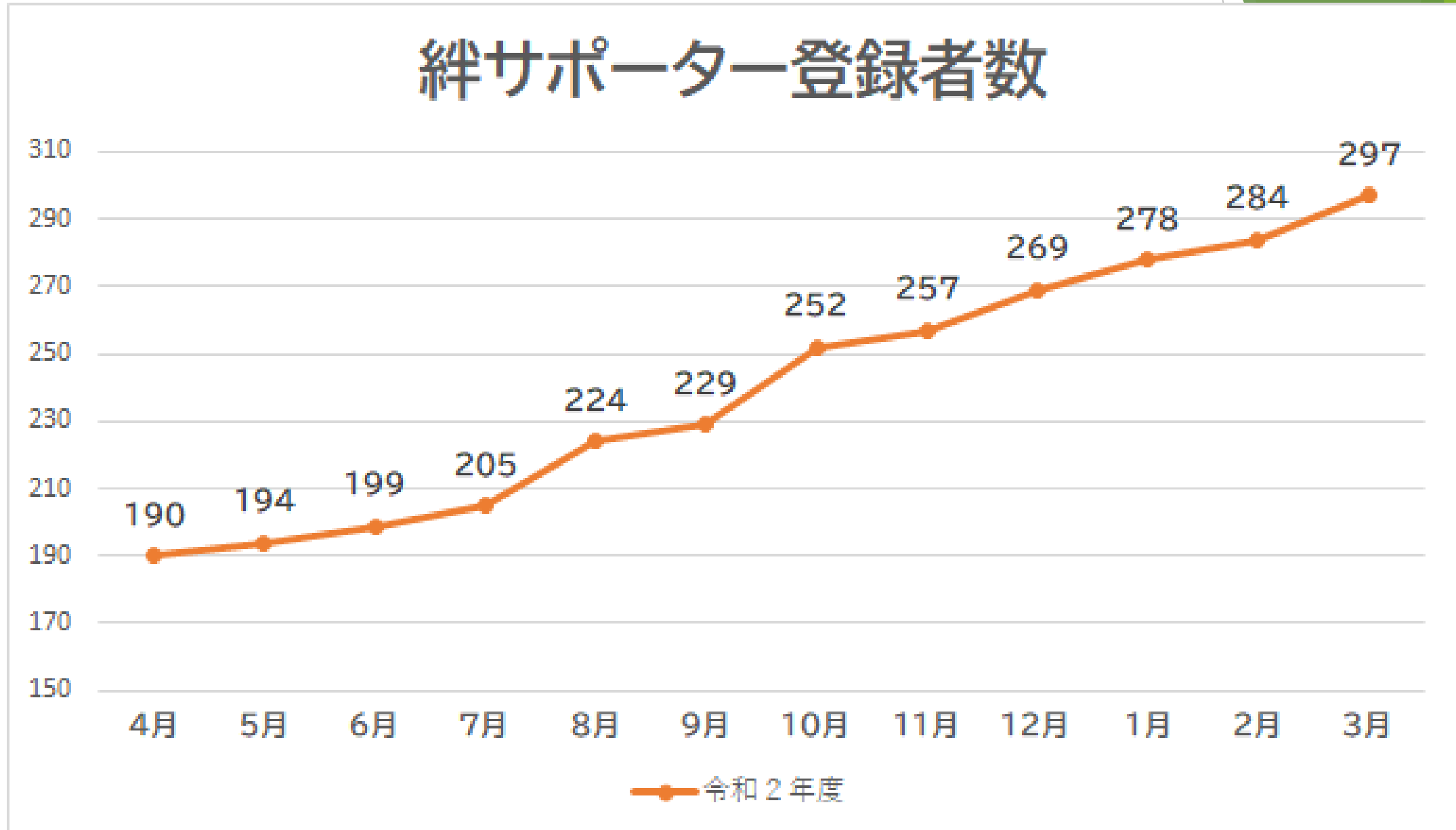


やってみて感じたことは、「こんな簡単なことでも、人の手が必要だったんだ」ということです。ひょっとしたらご近所でも必要な人がいるかもしれないけれど、自分から「必要ですか」と聞いて回るわけにもいかないのです。おおた社協が間に入ってくれることで、ほどよい距離感をもってサポートができています。これからも、私でできることを、お手伝いしていきたいです。



サポーター 木田さん

## ■ 絆サポーター登録者数（現：297名）



# (4) 様々な地域貢献のカタチの提案

# ①地域で広がるフードドライブ活動



▶ たった一品の寄付から始められる地域貢献活動でもあるフードドライブの活動が、活発になってきています。今年1年でも以下の取組みが行われ、多くの食料が届きました。

## 《地域での開催》

- シニアステーション糀谷とJALとの協働開催(年1回)
- グランドデュオ蒲田店と協働開催(年3回)
- 区・特別出張所(4か所)と協働開催(年3回)
- ザ・リバープレイス自治会(下丸子)

■おおた社協では、常時食料寄付を受けており、年間1,700点、100名を超える区民の方が来所。



《ザ・リバープレイス自治会(下丸子)のフードドライブイベントにて》



# 地域スーパー/コンビニとの協働の取組み

## ● フードドライブ活動 (必要とされる方への食料支援)



店舗内に常設のフードドライブコーナーを設置し、地域住民から集まった食料を、おおた社協へ定期寄贈いただき、必要とされる方に配布しています。



ピーコックストア 石川台店様



ファミリーマート大田南馬込六丁目店様



ファミリーマート大田池上徳持店様



マルエツかまた店様



マルエツ新蕨谷店様



グルメシティ蕨谷店様





## ②今から始められる地域貢献・家ボラ

- ▶ 1年近い、長い見えないウィルスとの闘いの中、区民の皆さんへウィルスに負けず、よりの一層人と人との絆を強くするための活動の提案を行いました。

### あいちゃんのマスク プロジェクト

感染症拡大の影響でマスク不足が続いてたため、マスクを手作りして下さる方を募り、皆様から、心温まる素敵な作品が数多く届けられました。  
いただいたマスクは、一人親家庭の方を中心にお届けしました。



プロジェクト  
進行中



### 手作り雑巾 プロジェクト

日々の生活や、施設内の清掃等で、重宝される「雑巾」を、一つ一つ皆さんの思いを込めて、作っていただきました。  
届けられた「雑巾」は、大田社協を通じて、区内福祉施設等へお届けしました。



作業は  
終了  
しました



東調布中学校3年生の皆さんが雑巾作りにも協力してくれました。

# (5) 災害ボランティアセンターの 強化の取組み

# ■ 災害ボランティアの必要性

・昨今、都市部においては、高齢者のみ世帯、単身世帯や地域との接点が少ない若い世帯も増えているため、被災した自宅の復旧作業を単独で行えることは非常に困難。

そんな時、災害ボランティアは、サポートが必要な世帯に対し、区内外からボランティアを集め、生活再建をいち早く進める役割を担います。



# ■ 災害ボランティアセンター年間活動

具体的な取組み	目的	概要	実施時期
『災害ボランティアセンター体験会』	災害ボランティアの啓発促進	・毎年、特定地区で地域への災害ボランティアへの理解啓発を図るための講座、体験会を行う。	9月～11月
『災害ボランティア初めて講座』	災害ボランティア登録者の増加	・広く一般の区民を対象とした災害ボランティアの理解を深め、災害ボランティア登録者を増やす取組み。	9月
『災害ボランティアリーダー講習』	センター運営者の強化	・区職員、災ボラ経験者、社協職員を中心にセンター運営の連携、知識を得るための取組み。	3月



# これまでの特別出張所との連携の取組み

## ▶ 令和元年度：蒲田西特別出張所と連携

■実施日：令和元年1月22日

■実施場所：蒲田西特別出張所会議室

■参加者数：50名

## ▶ 令和2年度：大森東特別出張所と連携

■実施日：令和2年11月14日

■実施場所：大森東特別出張所会議室・防災公園

■参加者数：37名

## ▶ 令和2年度：大森西特別出張所と連携

■実施日：令和2年12月10日

■実施場所：こらぼ大森

■参加者数：21名

※主な参加者：自治会・町会/民生委員/災害ボランティア経験者/  
出張所職員/地域の一般参加者等

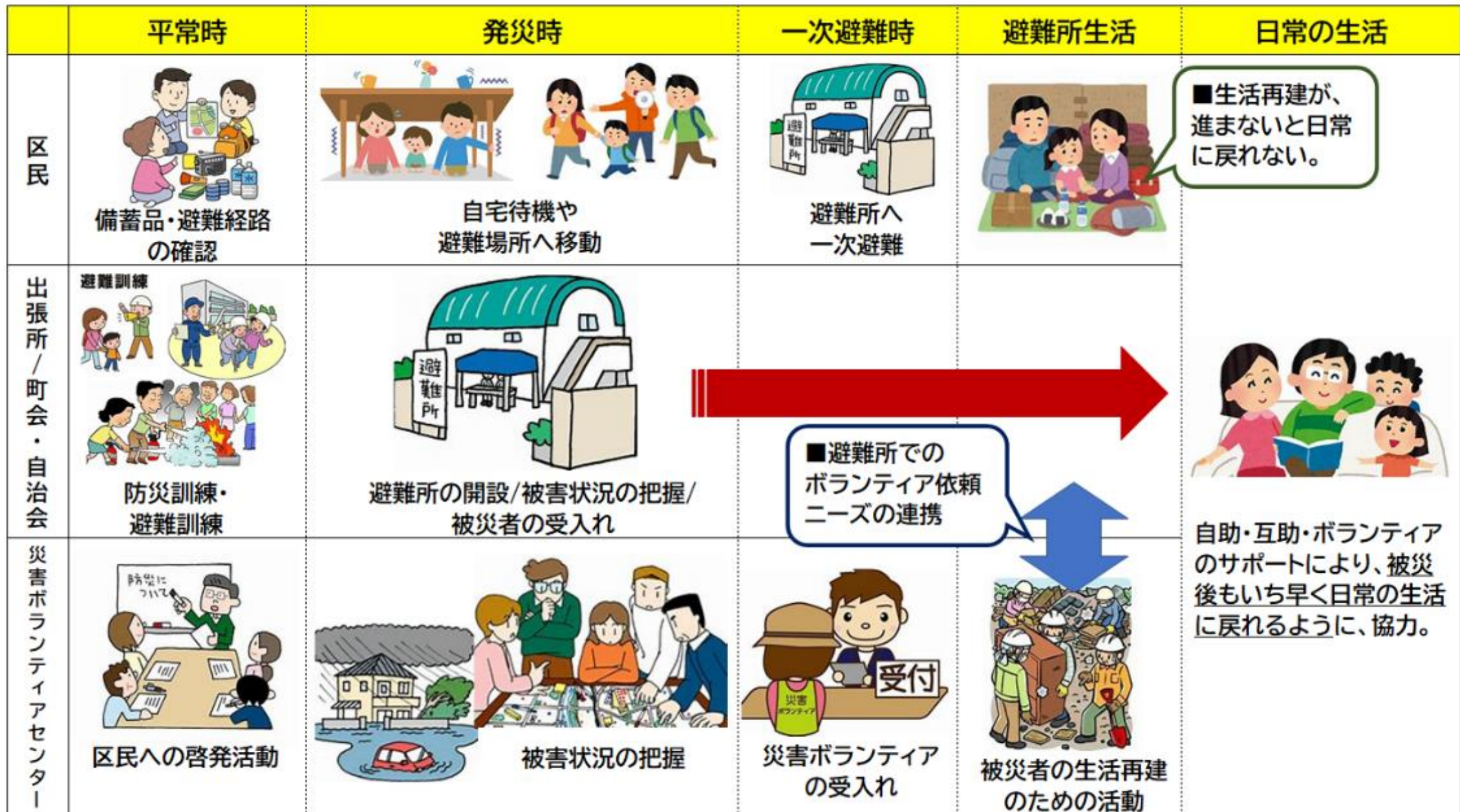


《大森東地区》



《大森西地区》

# ■ 避難所と災害ボランティアセンターとの関係





# (6)地域の支えあいのプラットフォーム

# ■プラットフォームって？

- ▶ 様々な個人・団体が、双方の強みを持ち寄り、個々では解決できない課題を解決するための共通の土台となります。



# こんなことを話し合っています！

- ▶ コロナ禍で、地域の方の様子が見えづらくなっている状況の中、困っている住人の情報を持ち寄り、共有しています。
- ▶ 参加者同士の強みを共有し、地域の中で、できることがないかを話し合っています。

# ■ 蒲田西プラットフォームの話し合いの風景



**【工学院生がオンラインで参加】**